

# ひとことインタビュー



美しい自然  
忘れられない  
東京都足立区  
江森利秋さん(63歳)  
〔織笠出身〕

昭和34年に山田から上京し、「ふる里会」には5、6回目の参加になります。私は沼崎町長とは幼なじみで一緒に缶けりなどをして遊んだ仲なので、町長になっていると聞いてびっくりしましたね。生まれ故郷の織笠にはお盆に必ず帰るようにしています。あのきれいな海や山、川はどこにいても忘れられるものではありません。古里はいつ帰ってもいいものですね。

町の発展を  
願っています

埼玉県川口市  
木村玲子さん(73歳)  
〔北浜町出身・旧姓湊〕



上京してもう30年になります。「ふる里会」へは友人と誘い合って毎年欠かさず参加しています。たまに山田に帰りますが、やっぱり古里はいいですね。町内の商店が閉店したり、町の過疎化が進んでいるという話を聞きますが、昔の漁が盛んだった頃のことを思うと、何とも寂しい気持ちになりますね。地場産業などで町が発展するように遠くから応援しています。

宣伝方法を  
何か工夫しては  
千葉県船橋市  
川端正和さん(57歳)  
〔大浦出身〕



「ふる里会」には毎年参加していますが、最近では家族で参加する人たちも増えて、とても良いことだと思います。それでも年々参加者の数が減ってきているのがとても残念ですね。私も一生懸命声をかけて人を集めているつもりですが、町でもさまざまな年代の人が参加できるように、宣伝方法を何か工夫してみたいかがでしょうか。

懐かしい人たちの再会で  
思い出話も弾みます



物産販売も行われ、古里の味を買い求めました

特産品が当たる抽選会では、当せん者はうれしそうに受け取っていました



これからも  
参加し続けたい  
埼玉県上尾市  
植田智子さん(77歳)  
〔大沢出身・旧姓千代川〕



私は若い頃、終戦後まで山田町役場に勤めていました。戸籍の事務を担当していて、役場庁舎の下にあった防空ごうの中で事務を行っていたことを思い出しますね。ふる里会には今まで10回以上は参加していますが、足腰が丈夫なうちはこれからも参加し続けたいです。なかなか機会が無くて山田には帰れませんけれども、山田にいる友人たちにも会えたらうれしいですね。



昆暉雄副議長の乾杯で懇親の集いの幕が開けました《写真上》／名誉町民鈴木善幸先生（代理出席・鈴木俊一衆議院議員秘書の守本敬子さん＝写真左＝）に山田町ソフトテニス協会（代理贈呈・昆秩さん）から板テニスのラケットが手渡されました《写真下》

# 思い出話に花咲かせ

## 在京114人が集い交流深め合う

総会では堀合辰夫会長が「皆さんの協力により同会も今年で十九回を迎えることができました。今日は時間の許す限り、会員同士の親睦を深めてもらいたい」とあいさつ。その後、平成十五年度の事業報告や本年度の事業計画などが審議され、原案通り承認されました。

オランダ島での観光事業なども計画しています。これを機会に山田へ足を運んでいただくようお願いいたします」と述べました。総会終了後の「懇親交流の集い」は、昆暉雄副議長、同郷人同士の音頭で幕が開け、同郷人同士の古里を懐かしみながら、思い出話に花を咲かせていました。また、山田町ソフトテニス協会（佐藤幸男会長）から、小学生のころ板テニスが大変上手だった名誉町民である鈴木善幸先生へラケットが贈呈される場面もありました。会場では物産販売や特産品が当たる抽選会が行われ、参加した皆さんは古里を思い出し満足した様子。地区ごとに記念撮影を行い、最後に参加者全員で「ふるさと」を合唱し、来年の再会を約束して会場を後にしました。

東京近郊に暮らす本町出身者などが集い、交流を深め合う「ふる里山田同郷の会」が六月二十日、中野区のサンプラザを会場に開かれました。今年で十九回目を迎える同会には、百十四人が出席。町からも沼崎喜一町長をはじめ職員四人、町議会からは昆暉雄副議長、さらに山田町商工会の阿部幸栄会長が参加しました。総会で本年度の事業計画や収支予算などを審議した後、参加者お持ちかねの「懇親交流の集い」などが開かれ、会場のあちこちに談笑の輪がいくつもできるなど、年に一度の同郷人同士の交流を楽しんでいました。